平成２７年度　明石市まちづくり交付金事後評価委員会　議事録

1　日　時　平成 28 年 2 月 5 日（金）9：30～11：30

2　場　所　明石市役所議会棟　第 2 委員会室

3　出席者

委員長　　佐々木　弘（神戸大学名誉教授）

委　員　　石内　鉄平（明石工業高等専門学校准教授）

委　員　　水野　優子（武庫川女子大学講師）

〔事務局〕　鈴見（政策部まち再生担当部長）

高田（政策部まち再生室課長）

西田（政策部まち再生室担当係長）

岡田（政策部政策室課長）

4　提示資料

・議事次第、委員名簿、座席表

・資料１　　都市再生整備計画事業（明石市中心市街地地区）の事後評価について

・資料２　　事後評価原案

・資料３　　都市再生整備計画（明石市中心市街地地区）

・資料４　　まちづくり交付金事後評価実施要領

・参考資料　昨年の審議結果

5　議事内容

(1) 開会

(2) 議事録署名人の指名

(3) 議題「都市再生整備計画事業（明石市中心市街地地区）」の事後評価について

■事後評価内容の説明

事務局西田係長より、資料に基づいて説明。

■審議要旨

委員長より、評価委員会の位置づけ等の説明後、審議へ。

（委　員）　建物がまだ完成していないが、図書館や子育てスペース、イベント広場など、空間としては非常に素晴らしいものになっていると思われる。
今後はそれらをどのように運営していくのか。特にシンボルになるような空間であるイベント広場について今後どう考えているのか。

（事務局）　指定管理者制度を用いて、中心市街地だけでなく明石全体をＰＲしていくイベントを開催し、賑わいの創出を図っていきたい。全国的に同じような事例があるので参考にしながら運営を行う予定。

（委　員）　賑わいを創出するには、商業者や住民など関連団体を巻き込みながらの展開必要なので、そのような連携を行うとさらによくなると思われる。

（委員長）　イベント広場はできるだけ多目的に自由に使えるよう工夫されるべき。民間のイベント会社などを活用し様々なアイデアを出しながら運営されると、賑わいを生み出しやすいのではないか。

（事務局）　広場はできるだけ広く使って大きなイベントを優先的に行いたいが、小さいスペースでも貸すことができ、様々なイベントに対応できるよう、柔軟な運営を考えている。

（委　員）　イベント広場については、単発的なイベントだけでなく、日常的な賑わいの創出のためにも、地域の高齢者が集まって、休めたり、おしゃべりしたりできる様な自由度の高い空間づくりを希望する。

（事務局）　平日にイベントを行うのは難しいと考えるので、ベンチやイス、緑地などを置き、憩いの空間を演出したいと思う。

（委　員）　図書館の利用者数は、従前値に対して目標値はどのように試算したのか。

（事務局）　図書館については、現在の駅から距離のある場所から、駅前へと移転した場合の、他都市の同様の事例の実績を勘案し、現状の約 2 倍を試算しており、同規模の他都市では年間 60 万人の利用者があるといった実績を踏まえて目標値を定めている。

（委　員）　ハードがかなり整備され、満足度や通行量も上がると思われるが、今後のまちづくりの方策として、整備したハードをソフト面でいかに生かすかが課題のポイントとなる。

今後のソフト施策における展開や展望などはどのようなものか。

（事務局）　現在、2 期計画として新しい中心市街地活性化基本計画について認定申請を進めており、その中では、現在事業中の再開発事業に加えて、ソフト施策を重点的に位置付けている。

音楽関係の事業や商店街が自ら実施する事業などを、整備するイベント広場や新しく整備されたほんまち三白館などの場所を活用しながら、文化振興的事業を盛り込んだ計画となっている。

（委　員）　回遊を考えた中で、今後重要なのは南北間の通行量だと思われるが、2 期計画の中で南側の明石港に関わるような事業は提案されているか。

（事務局）　総合的な計画として明石港周辺の利活用計画を 1 期計画から引き続き検討していく予定である。

ハード整備については、フェリー乗り場跡地や旅客船乗り場周辺における休憩施設や景観施設、駐輪場の改修など、実施できるものから取り組んでいく予定である。

その他、ほんまち三白館など本町地区も含めた海のゾーンでソフト的な取組も行いながら活性化を図っていこうと考えている。

（委員長）　明石へ外から来ている来街者にとっては、明石のイメージは海と今回の「中心市街地エリア」外であるが北側の明石公園にあるお城だと思われる。駅と公園、城がこれだけ密着しているところは他にあまりなく、一つの財産だと思われる。

明石公園への来街者をも駅の南へ引き寄せる発想によって、より大きな回遊性をもたせるのが良いのではないか。

（事務局）　明石公園は県内でも有数の集客施設であり、中心市街地と一体となったイベントとして毎年 6 月に時のウィークなどを行っているが、単発で終わっている状況である。

中心市街地活性化協議会や分科会でも、明石公園への来街者を南へ誘導するという意識はあり、今後連携しながら活性化事業を進めていこうと考えている。

（委員長）　今回の事業は本質的には公共施設の「スクラップアンドビルド」であると考える。現行の施設の一部を新しく整備されたスペースに移転することになると、今まで施設があった場所にはその分の新しいスペースが空き、そこをどう活用するべきかという新たな問題が生じる。

そういった「スクラップアンドビルド」がもたらすベネフィットとコストの効果や目標について、短期的ではなく中長期的な、市全体の将来の方向性を考えていくことが必要であると思われる。

（事務局）　国でも「コンパクトシティ」を進めるにあたって、公共施設の総合管理や立地適正化が重要視されているが、明石市ではまだ検討の段階の状況である。

今後は、第2期中心市街地活性化基本計画などをもとに、中長期的な視点を踏まえて今後のまちづくりを進めていきたい。

（委員長）　「コンパクトシティ」という考えは普段市民が触れることが少ないが、コスト削減などの点でも様々な効果があると思われる。

（事務局）　新たな公共施設を整備するうえで、国でも交付金を受けるには公共施設の再配置などの総合計画が必須となっている。

人口減少の中、無尽蔵に公共施設を増やすのではなく、ランニングコストを踏まえると、スクラップアンドビルドによりコンパクトなまちづくりが必要となる。

市としても引き続きそのような視点でまちづくりを進めていくべきであると考える。

（委　員）　回遊を考えると、人口減少の中、地元住民を呼び寄せたいのか、外からの観光客を呼びたいのか、どのような方たちをターゲットとしてイメージしているのかが今後の方針として必要であると感じる。

（委員長）　最近の外国からの「爆買い」のように、どのような人がどこに寄ってどういうところでお金を使うのかを研究している人がおり、そのような「ビッグデータ」を行政でも使えるのではないか。

（事務局）　現在はまだアンケートなどのデータに頼っている状況だが、今後はスマホなどを使った調査も考えられる。

　ターゲットについては、商業者の方々と会議において、周辺の住民なのか観光客なのかといった議論をよく行うが、やはり地元の方々に来てもらいたいといった思いは強い。ただし、観光バスでこられて買物されて帰るケースも非常に多いという状況である。

（委員長）　以上、本日の審議全体を通して、結論としてお手元の「事後評価原案」について「妥当である」と委員会としてよろしいでしょうか。

（委　員）　（全員）はい。

(4) 閉会

（閉会１１時３０分）